

※戦略評価判定基準: 戦略を構成する施策の評価結果に基づき、A(順調)、B(概ね順調)、C(一部未達成)の3段階で評価する。

戦略1 育て・挑戦を支える商工会		総合評価	C
施策1	職員が一体となったチーム男鹿による個社支援の強化【重点推進施策】		B
施策2	観光資源を活用した販路開拓【重点推進施策】		B
施策3	創業・事業承継への支援		B
施策4	関係機関等との連携強化【重点推進施策】		C

評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	個社支援の強化には職員同士が知恵を出し合い、1人の負担を軽減するチーム支援対応に傾注し、創業支援・事業承継も含め効率は良く問題解決もスムーズであり創業者は3者に至っている。観光資源活用において男鹿版DMOとの連携で男鹿市・JRと一緒に誘客を図り新たな動きのゾーンが形成されてきており、他の関係機関との連携においては水産物加工品事業に携わり6次産業化に繋がっている。	解決提案・実行支援等内容の濃い巡回を行い、第二創業支援など持続事業、新展開の事業など事業者の更なるニーズへの対応に出来るよう努めていかなければならない。事業承継問題は多くスピード感をもって解決していかねばならないが、思うようにはかどらない状況である。関係機関との連携強化は商工会が中心になりテーマを絞った事業を実施して結果を出していかなければならない。	更なる個社支援の強化のうえから巡回に占める解決提案・実行支援割合を4割～5割目標として長期経営支援(改善)の視点での伴走型支援を行う。観光資源活用において誘客・宿泊を図るうえから男鹿版DMOのもと景観良い男鹿半島の地でトリアスロン実施に向けてアクションを前進させており定着を図っていく。市外加工業者へ1次産品商品にならない小魚を煮干し商品化で6次産業化を推し進めていく。

戦略2 プロ集団の商工会		総合評価	B
施策5	自立的に努力し続ける職員の計画的な育成【重点推進施策】		B

評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	定期的開催されるセミナー及び商工会独自に開催するタイムリーな内容の講習会は受講させているが、より専門的な知識を習得させるには、中長期で開催される専門分野に特化したセミナー等の受講が必要であると共にアフターフォローや休日でも自己向上を図るためにも機会あるごとに多岐にわたる教養を身に付ける必要がある。	多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、的確な解決策の提案ができるよう、職員が積極的に専門的知識を吸収することが大事であり、職員個人で自己研鑽に努めることができたことと、職員会議や職員間のコミュニケーションで習得した情報を共有したことで職員全員の資質向上に繋がっていく事が求められている。	セミナー等の受講を通じて、職員間で積極的な情報共有をし、多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、的確な解決策の提案ができるようにしていく事が求められており、他の業界の専門分野の情報収集にも励んでいく事も常に念頭に入れておく。

戦略3 事業者が主役の商工会		総合評価	C
施策6	実効性のある会員加入促進の実施【重点推進施策】		B
施策7	将来にわたり活動の担い手となる人材育成の強化		C

評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	新規会員加入については、記帳指導や労働保険、各種共済業務などを通じて会員加入に繋がっている。青年部・女性部については具体的な計画立案には至っていないがそれぞれのベクトルの相違もあることを考えると、計画立案までは時間を要することが予想される。そのため、計画立案までのスケジュールを再度示し、計画的な対応に努めていかなければならない。	青年部・女性部は事業参加率が低下しており、現状把握・課題抽出には時間を要する。さらに、共通した課題として部員数の減少が挙げられ、新規部員加入推進活動はしているものの、事業に結び付いていないのが実態である。あわせて部員の高齢化(加入資格年齢)による脱退も増加しており、それに伴い参加率低下に拍車がかかっている。	現状把握・課題抽出のための機会を創出し、より詳細な現状把握に努める。年間4回程度の会議開催時に議題として提案する。また、新規部員推進事業については今後も継続的に実施し、部員数の純増に繋げていきたい。

戦略4 機動的・効率的な商工会		総合評価	C
施策8	充実した個社支援のための事務局体制の構築		B
施策9	受託業務・地域振興事業の見直し		C

評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	受託業務することにより、経営指導が希薄にならないようにしっかりと体制が事務局側に望まれるが受託業務内の期日が迫ってくれば力量が分散される面も見受けられる。受託業務がスクラップが可能か慎重な協議が必要である。現状では移譲先も見つからず効率化をはかりつつ継続して受託業務をおこなっている。	地域振興事業や受託事業には行政の関与もあり考慮しなげなければならない面もある。移譲するにも新たな譲渡先の理解が大事であるが現在おこなっている受託事業への強い関与等がなければ移譲は難しいと思われる。移譲先が見つからず重荷であればスクラップを考えていかなければならないがそう簡単でないと思われる。たとえ新たな移譲先があってもしばらくの間一緒に押しすすめていかなければならないと思われる。	地域振興事業や受託事業でも、会員のためのメリットがあり、商工会が重宝されるのであれば積極的に推進していく事も検討していかなければならない。継続しての受託業務は現況もこれからは費用対効果をしっかり見極めて事業効果を検証していかなければならない。

戦略5 環境変化に強い商工会		総合評価	B
施策10	中長期財政運営計画の策定		B

評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	役員協力のもと職員が意識して収入の増加及び支出の減少に取り組んでおり次期繰越収支差額にも反映されている。但し中長期財政運営計画を協議しており5年先、10年先を見据えた取り組みを役員が共通認識を持って財政維持に努める事と運営計画を管理していく体制づくりを固めていく。	例年、会員数は加入者より廃業理由等の脱会者が上回り、自己財源の基盤が年々縮小される事から、5年後及び10年後の会員数・職員数を想定しての財政シミュレーションにより、中長期財政運営計画を策定して、管理・定期的な計画の見直しをする体制づくりを早期に行う必要があると強く受け止めていかなければならない。	中長期財政運営計画は役職員の幅広い意見を反映させ、共通の認識で取り組む事で効果が表れ、財政・事業の方向性が導かれる事から定期的な計画の見直しが必要となる事から、基本となる計画を早期に策定する事が重要で常に見直しをかけていく。

※施策評価判定基準: 施策を構成する事業の評価結果に基づき、A(順調)、B(概ね順調)、C(一部未達成)の3段階で評価する。

施策1	職員が一体となったチーム男鹿による個社支援の強化【重点推進施策】	総合評価	B
-----	----------------------------------	------	---

	事業1	経営状況・需要動向の分析、会員ニーズの把握	B
	事業2	支援ノウハウの共有化	A
	事業3	テーマ別巡回の実施	B

評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	多様化・専門化する事業者の経営課題に対して的確な解決策の提案が必要となってきた。そのためには商工会における情報収集はもとより、取得した情報を職員間で共有することで適切で迅速な対応を図っていかねばならない。テーマ別巡回では期日が定められている事業補助金活用やアンケート調査などタイムリーに応じて効率を考慮した計画的巡回を実施してきた。	人事交流異動で地域の知識が希薄な職員については、会員と慣れるまで時間要する事から他職員の支援が必要となる。複数対応により地域に慣れない職員をサポートする体制づくりを行わなければならない。又、解決提案・実行支援等内容の深い巡回を行い、事業者のニーズへの対応により、商工会の必要性をアピール出来るような内容に努めなければならない。	市内の地域情勢は変化してきており、特に人口減少が目立っており、地域内を商圏とする事業者にとっては事業そのものの継続が難しくなると推察されるため、事業者の経営実態や課題を的確に把握し伴走型支援を一層強化し、会員の抱える課題をスピードをもって解決させていくためには専門家をフル活用していく。

施策2	観光資源を活用した販路開拓【重点推進施策】	総合評価	B
-----	-----------------------	------	---

	事業4	観光振興に関するセミナー等実施	B
	事業5	商品開発や既存商品ブラッシュアップ支援	A
	事業6	男鹿DMOとの連携強化	B

評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	観光振興を図ろうと男鹿版DMOのスポーツツーリズムを柱に自転車(ライド)での半島一周をおこなっており、続けてトライアスロン大会実施に向け、専門家を招聘してのセミナーを行い新しい形の振興策を図っている。またご当地グルメとして鶏の唐揚げを「空上げ」と称して普及を図り、観光交流人口拡大と経済振興に結び付けようとしている。	男鹿自然、文化、スポーツなどの素材を結び付け観光資源として再生させ、また男鹿の認知度向上や男鹿の海山からなる商品の浸透を図ることで新たな観光需要創造を目指すものであり、市内外の企業、団体の連携により国内・海外からの観光誘客の拡大を図り、飲食店、地元グルメの消費拡大等に結び付けたい。	男鹿はコンパクトな半島に海、山と変化に富む景色で、お山かけなど地域の文化と新たなスポーツを掛け合わせた大会で誘客を推し進めてきており、継続して強化しなければならない。地元しょっつるを活用したご当地グルメとして①男鹿しょっつるやきそば②航空自衛隊考案の「しょっつる空上げ(鶏の唐揚げ)」③しょっつる餃子(現在試作品含め開発中)といった地元食材を使った素朴な料理の提供にも力を入れていく。

施策4	関係機関との連携強化【重点推進施策】	総合評価	C
-----	--------------------	------	---

	事業11	関係機関との事業連携計画の策定	B
	事業12	関係機関とのテーマ別研究会の実施	C

評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	JR・男鹿市と一緒に「冬のごほうび」ファイナルイベントして冬の新たな魅力創出を行おうと、通年での観光の実現につなげていく事とし、これを受け男鹿駅周辺で冬のイベントが無いのとの意見があり、冬期間の男鹿駅・道の駅おが周辺での「おもてなし」を今回は実施した。	関係機関とのテーマ別実施においては地元で水揚げされた規格内魚介類は市場に出るが、規格外は自前(漁師等)で消費するか捨てるようなものであり、資源を活かしきっていないのが現状である。市内には加工工場がなく市外の加工業者に商品にできないか相談協議している状態である。	男鹿沿線の観光利用促進に関し、地域の機関等(官民一体)となり、男鹿沿線、地域周辺の活力を醸成していくため、地元関係者とJRのご協力も得て五能線並ぶようにみちのくの男鹿として売込して誘客を図り、安定した観光客を受け入れる体制にしていきたい。

施策5	自律的に努力し続ける職員の計画的な育成【重点推進施策】	総合評価	B
-----	-----------------------------	------	---

	事業13	商工会独自の資格取得奨励制度の創設	B
	事業14	商工会独自のセミナー等受講計画の策定及び実施	A

評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、的確な解決策の提案ができるよう各種資格の取得を奨励し、職員の資質向上を図っていかねばならない。会館管理も必要なことから危険物取扱セミナーに参加して危険物取扱を取得している。	業務に結び付く資格取得にあたり、学習時間を要する。会員がどのような課題解決が必要か、またどのような情報を得たいか内容を整理精査してしっかりと知識を習得するようにしたい。	セミナー等の受講を通じて、職員個々の自己研鑽に励んでいくとともに、多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、的確な解決策の提案ができるようにしていく。業務に結び付く資格取得すれば、充実した奨励を与えていくようにする。

施策6	実効性のある会員加入促進活動の実施【重点推進施策】	総合評価	B
-----	---------------------------	------	---

	事業15	会員加入促進計画の策定	B
	事業16	役職員が一体となった会員加入促進活動の実施	A

評価結果	評価理由	課題	今後の対応方針(改善点)
	新規会員に繋がったのは、記帳指導や労働保険であり、しっかりとした支援が加入に繋がっている。また、金融機関とも情報を密にし、新規会員加入に結びついている。	地域状況は人口減少などで大きく変化しており、連動してマーケットも縮小してきており、事業継続にも支障が出てきている。新規会員加入しても地域を越えた事業展開の支援が必要となってきた。	職員の経験年数や人事交流で新たに赴任する方の経歴等を踏まえ、年間の目標を見立て、会員加入促進に努めていくことと、これまで以上に会員・役職員の連携を密にとり、新規加入会員促進に努めていく。

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	1	事業名	経営状況・需要動向の分析、会員ニーズの把握			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	男鹿市	担当者名	三浦達也	総轄者名	久保市 隆	施策コード	1	施策名	職員が一体となったチーム男鹿による個社支援の強化		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

地域内を主たる商圏とする事業者については事業そのものの継続が困難な事から、事業者の経営実態や課題を的確に把握して持続的発展に繋がる伴走型支援強化が必要な状況。

2. 事業のねらい

個社の経営状況・需要動向の分析を行う事で、本質的(根本的・慢性的)な経営課題を捉え、長期経営改善の視点から伴走型支援を行う。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	a	H30		H31		H32
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

巡回等により地域の状況は概ね把握出来ているが、より深く個社の経営課題に踏み込み「解決提案・実行支援」を行う必要がある。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

全体の巡回に占める解決提案・実行支援割合を高め、より事業者に対する支援力を高める為にチーム支援力を強化する。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
巡回目標件数を2600件、その内「解決提案・実行支援」を780件として、全体の巡回に占める解決提案・実行支援割合を30%超として個社支援を高める巡回に努める。	巡回件数3561件、解決提案547件、実行支援244件で目標とする780件以上となったが、全体の巡回に占める解決提案・実行支援割合は22.2%であった。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	解決提案・実行支援巡回件数					項目						項目					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標	420	780	1,000	1,080	1,200	目標						目標					
実績	437	791				実績						実績					
達成率	104%	101%				達成率						達成率					
達成度	a	a				達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性	現状の課題に	a(対応している)	b(一部対応している)	c(対応していない)	b
------------------------	--------	-----------	-------------	------------	----------

〈評価の理由〉

巡回の結果として、①持続化補助金・元気づくり事業補助金・事業承継補助金等補助金の活用提案及び実行、②低利な融資制度の活用(マル経・市町村融資)、③借入金返済条件変更、④事業承継、⑤専門家派遣等の支援に繋がっており、職員会議や職員間のコミュニケーションで情報を共有してチーム体制で事業者の課題解決に努めている。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況	事業内容・評価指標の実績の達成度が	a(すべてa判定の場合)	b(a,c以外の場合)	c(いずれかがc判定の場合)	a
--------------------	-------------------	--------------	-------------	----------------	----------

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

融資相談・記帳及び決算事務・労働保険事務・景気動向調査・各種共済の手続き・商工会報配布等の機会に事業者とコミュニケーションを図る事が経営状況等ニーズの把握に繋がっており、事業者とすれば誰に何を相談すれば良いか分からない状態が、日頃の巡回で顔を覚えて頂く事で少しずつ改善されている。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況	コスト縮減の取組は	a(客観的で効果が高い)	b(取り組んでいる)	c(取り組んでいない)	b
----------------------------------	-----------	--------------	------------	-------------	----------

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

職員間の情報共有により同一事業所への重複巡回等を防止して、簡易な案件の場合は任せたり、別案件の場合は帯同する等で対応している。結果として巡回に伴うガソリン代削減・事業者と職員双方の相談時間効率化が図られる。又、目的地と近隣の地域も含めた巡回を行う事で移動時間等が削減され効率の良い巡回に繋がっている。

2. 総合評価・理由	A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合	B(概ね順調)A、C以外の場合	C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
------------	---------------------------	-----------------	--------------------------------	----------

日頃の巡回が事業者とのコミュニケーションに繋がっており、信頼関係が構築され、経営状況等ニーズを把握して対応する事により、職員の支援スキルと共に個社支援力が向上している状況。更なる個社支援の強化には職員同士の知恵を出し合い、1人の負担を軽減するチーム支援対応が不可欠であり、現状では2人体制のチーム支援が多く対応している状況。

3. 課題

人事交流による異動で地域の知識が希薄な職員については、事業者と信頼関係を得るまでに時間が掛かる事から他職員のバックアップが必要不可欠となる。複数対応により地域に慣れない職員をサポートする体制づくりを行う。又、解決提案・実行支援等内容の深い巡回を行い、更なる事業者のニーズへの対応により、商工会の必要性をアピール出来るような内容に努める。

4. 今後の対応方針(改善点)

巡回の資質向上を図り、全体の巡回に占める解決提案・実行支援割合を4割~5割を目標として、商工会としても費用対効果がある個社支援の強化で、事業者に対して長期経営改善の視点により伴走型支援を行う。

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	2	事業名	支援ノウハウの共有化			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	男鹿市	担当者名	原田 武史	総轄者名	久保市 隆	施策コード	1	施策名	職員が一体となったチーム男鹿による個社支援の強化		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、的確な解決策の提案が必要となってきた。そのためには商工会における情報収集はもとより、取得した情報を職員間で共有することで、適切で迅速な対応を図る必要がある。

2. 事業のねらい

職員が一体となって会員の実態把握に努めることで、具体的かつ効果的な解決提案を行う。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	b	H30		H31		H32
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

職員それぞれの勤務年数や経験の相違により、解決提案のための対応力に差異が生じている。職員能力の平準化を図りながら、OJTによる能力向上が求められる。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

・事務局体制を再構築し、業務効率化を図る。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
・必要に応じ職員打合せを開催し、情報の共有化を図る ・相談内容に応じたチーム体制の構築(OJT)	・職員打合せの随時開催(事業、融資、税務、補助金、共済等) ・会議資料等の回覧による情報の共有 ・初回支援からフォローアップまでを含めた少人数チーム体制の構築と支援対応	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	項目					項目	項目										
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

〈評価の理由〉

情報を共有することで、多面的な支援が可能となる。効果的かつ迅速な対応が可能となる。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合) a

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

相談案件に対し複数提案が可能となり、これにより効果的かつ迅速な対応が可能となる。また、OJTによる職員の能力向上も期待できる。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

一事案に対し複数職員で支援対応することになるが、情報共有による相乗効果は高く早期解決提案が可能となる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 A

情報共有による支援の平準化が図られ、より効果的な伴走型支援が可能となる。

3. 課題

事務局体制の見直しによる業務効率化への継続的な取り組み。

4. 今後の対応方針(改善点)

相談案件や支援内容に応じ、職員の経験等を考慮したチーム構成が必要。

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	3	事業名	テーマ別巡回の実施			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	男鹿市	担当者名	武田 智哉	総轄者名	久保市 隆	施策コード	3	施策名	職員が一体となったチーム男鹿による個社支援の強化		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

市内の地域情勢は大きく変化しており、なかでも人口減少が目立っており、地域内を商圈とする事業者にとっては事業そのものの継続が難しくなると推察されるため、事業者の経営実態や課題を的確に把握し、伴走型支援を行っていく。

2. 事業のねらい

事業者の経営実態や課題を的確に把握し、伴走型個社支援を行っていく事で、地域経済を支える事業者の維持・継続の創出を図っていく事ができる。

3. これまでの評価結果

過年度	H29		H30		H31		H32
-----	-----	--	-----	--	-----	--	-----

事業者の利益創出のため、専門家を活用し支援してきたこと。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

金融機関や会員からの情報を大事に取り組みしたこと。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
小規模事業者持続化補助金/売上拡大と販路開拓など利益創出に繋がる取り組み。マル経/資金繰りの安定化を図ることで、経営改善に繋がる取り組み。経営革新/新商品開発や新サービスの展開による支援。	小規模事業者持続化補助金を活用し、売上拡大や販路開拓など利益創出に繋がる取り組みができた。マル経については、融資により資金繰りの円滑化が図られた。経営革新については、実績はなかったものの、ものづくり補助金申請に向けて、経営革新認定のためのスケジュールを組むことができた。	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	小規模事業者持続化補助金					項目	マル経					項目	経営革新				
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標	15	15				目標	25	25				目標	1	1			
実績	2	9				実績	16	22				実績	0	0			
達成率	13%	60%				達成率	64%	88%				達成率					
達成度	C	C				達成度	c	b				達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

〈評価の理由〉

事業者の経営実態を的確に把握することで、利益創出や経営改善が図れた。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合) b

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

事業者の経営課題解決に向けて支援してきたことと、金融機関や会員の情報を収集したことにより、課題解決を図っていくことができた。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) b

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

事業者の経営実態を把握したことと、情報共有を図ったことにより、伴走型支援をすることができた。

3. 課題

多岐に渡る経営課題解決に迅速に対応できるよう支援していくこと。

4. 今後の対応方針(改善点)

相談案件に応じ、職員間で共有し解決できるもの、専門家につないで解決していくものを迅速に見極め、対応する。

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	4	事業名	観光振興に関するセミナー等実施			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	男鹿市	担当者名	久保市 隆	総轄者名	三浦 達也	施策コード	2	施策名	観光資源を活用した販路開拓		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

「男鹿の里山を走り、泳ぐ」をテーマに男鹿の里山を活用したトライアスロンを実現させたい。

2. 事業のねらい

日本海メロンマラソン、ロックフェスティバル、なまはげライドの事業には宿泊で男鹿温泉が活気を呈しており、新たな事業おこしにより誘客宿泊を図る。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	a	H30	b	H31		H32
-----	-----	---	-----	---	-----	--	-----

昨年のおもてなしセミナーは人気を博し、サービス業には浸透したと思われ、今回は事業実施での観光セミナーを実施する

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

観光客を迎える地元としては、「おもてなし」マナーが指摘されていた。昨年のおもてなしセミナーはサービス業からは大変喜ばれたセミナーであった

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
観光地域づくりセミナー:「男鹿の里山走り、泳ぐ」	男鹿の里山を活用したトライアスロン実現に向けて講演した	C

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	観光に関するセミナー					項目						項目							
	年度	H29	H30	H31	H32		H33	年度	H29	H30	H31		H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32
目標	1	2				目標						目標							
実績	1	1				実績						実績							
達成率	100%	50%				達成率						達成率							
達成度	a	c				達成度						達成度							

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) **a**

〈評価の理由〉

男鹿の環境、立地の良さを知ってもらうため、講師より実際に男鹿街道をバイクで走行、海で水泳、お山かけをしてもらい課題抽出してもらった

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合) **a**

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

多少の課題はあるものの、トライアスロンには立地は良いとの評価

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) **c**

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

今後の検討対応していく

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 **B**

男鹿はコンパクトな半島に海、山と変化に富む景色で、お山かけなど地域の文化とスポーツを掛け合わせた大会が出来れば面白い

3. 課題

しょっつるやババヒライスといった地元食材を使った素朴な料理の提供にも力を入れていかなければならない

4. 今後の対応方針(改善点)

トライアスロンの実施に向けて実証実験をする

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	5	事業名	商品開発や既存商品ブラッシュアップ支援			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	男鹿市	担当者名	原田 武史	総轄者名	久保市 隆	施策コード	2	施策名	観光資源を活用した販路		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、的確な解決策の提案が必要となってきた。そのためには商工会における情報収集はもとより、取得した情報を職員間で共有することで、適切で迅速な対応を図る必要がある。

2. 事業のねらい

職員が一体となって会員の実態把握に努めることで、具体的かつ効果的な解決提案を行う。

3. これまでの評価結果

過年度	H29		H30		H31		H32
-----	-----	--	-----	--	-----	--	-----

職員それぞれの勤務年数や経験の相違により、解決提案のための対応力に差異が生じている。職員能力の平準化を図りながら、OJTによる能力向上が求められる。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

・事務局体制を再構築し、業務効率化を図る。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
・必要に応じ職員打合せを開催し、情報の共有化を図る ・相談内容に応じたチーム体制の構築(OJT)	・職員打合せの随時開催(事業、融資、税務、補助金、共済等) ・会議資料等の回覧による情報の共有 ・初回支援からフォローアップまでを含めた少人数チーム体制の構築と支援対応	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	商品開発					項目						項目							
	年度	H29	H30	H31	H32		H33	年度	H29	H30	H31		H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32
目標	1	2				目標						目標							
実績	1	3				実績						実績							
達成率	100%	150%				達成率						達成率							
達成度	a	a				達成度						達成度							

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

情報を共有することで、多面的な支援が可能となる。効果的かつ迅速な対応が可能となる。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	a
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

相談案件に対し複数提案が可能となり、これにより効果的かつ迅速な対応が可能となる。また、OJTによる職員の能力向上も期待できる。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

一事案に対し複数職員で支援対応することになるが、情報共有による相乗効果は高く早期解決提案が可能となる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
---	---

情報共有による支援の平準化が図られ、より効果的な伴走型支援が可能となる。

3. 課題

事務局体制の見直しによる業務効率化への継続的な取り組み。

4. 今後の対応方針(改善点)

相談案件や支援内容に応じ、職員の経験等を考慮したチーム構成が必要。

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	6	事業名	男鹿DMOとの連携強化			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	男鹿市	担当者名	久保市 隆	総轄者名	三浦 達也	施策コード	2	施策名	観光資源を活用した販路開拓		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

観光地として更なる観光振興を考えており、地域の「稼ぐ力」と「観光地経営」の視点に立った観光地域づくり推進していかなければならない。

2. 事業のねらい

男鹿自然、文化、スポーツなどの素材を結び付け観光資源として再生させ、また男鹿の認知度向上や男鹿の海山からなる製品の浸透を図ることで新たな観光需要創造を目指すものであり、市内外の企業、団体の連携により国内・海外からの観光誘客の拡大を図る。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	b	H30	b	H31		H32
-----	-----	---	-----	---	-----	--	-----

他地域の実践していることを参考と、専門家化からの意見を基に推移させていったが、他の地域とどうすみ分けを図っていくのか地元独自のカラーを出した訪れたいくなるような地域づくりをする。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

昨年は事業の方向性を示すことでの協議と事業実施同時進行であった。初めての行う事業でもあり戸惑いもあったが、他の地域で行っていることを参考に事業を構成していった

事業内容	実績	達成度
なまはげ交流ツーリズム:なまはげ体験ツアー、柴灯まつり体験ツアー スポーツツーリズム:サイクル、トレッキング、スポーツを目的としたフリー客の呼び込み	なまはげ体験ツアー、柴灯まつり体験ツアー、(なまはげライド事業)サイクリング	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	項目					項目	項目										
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) **a**

〈評価の理由〉

他地域の参考は良いが、すべてまねることなくどう地元独自の良さをつくりあげていくのか、「なまはげ文化」「男鹿の自然風土」を活かした2本柱の誘客事業をしっかりと根付かせ行く事。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合) **b**

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

課題解決や事業内容については精査して、とにかく地元が一体となった地域にもたらせる成果を追っていく。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) **b**

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

観光従事者間の情報の共有と、お客さんへ発信する情報の一元化のためのスリム化

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 **B**

来た人により喜んでもらい、1円でも多くのお金を使ってもらえるようにするための事業であり、事業の成功によって地域にもたらされて成果を追求していている。

3. 課題

男鹿観光全体を包括した共通認識としての目標、ビジョンが明示されていない。

4. 今後の対応方針(改善点)

男鹿観光に携わる団体、企業の統一見解として統合された「男鹿観光の未来構想(ビジョン)」の明示

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	11	事業名	関係機関との事業連携計画の策定			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	男鹿市	担当者名	三浦 達也	総轄者名	久保市 隆	施策コード	4	施策名	関係機関との連携強化		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

男鹿沿線の観光利用促進に関し、地域の機関等(官民一体)となり、具体的な取り組みを推進し、男鹿沿線の魅力アップや、地域周辺の活力を醸成していく。名称は「男鹿観光推進WG」とする。

2. 事業のねらい

男鹿沿線の活性化、イベントの具体的取組、沿線の魅力アップの為の利用促進の取組、民間・行政の連携強化を図る。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	B	H30	B	H31		H32
-----	-----	---	-----	---	-----	--	-----

29年12月から立ち上げた「男鹿観光推進WG」であり、男鹿の観光資源や素材を基に男鹿沿線の魅力アップを図っていくものであり、具体的実施事業実施されていく。評価された事業は継続されていくものであり、9月開催の「男鹿ぐるめマーケット」は継続していく。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

秋田県内の「冬のごほうび」ファイナルイベントして冬の新たな魅力創出をおこない、通年で観光の実現につなげていく事とし、これを受け男鹿駅周辺で冬のイベントが無いのとの意見があり、冬期間の男鹿駅・道の駅おが周辺での「おもてなし」を今回は実施した

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
3月9日・10日の両日「世界に挑戦!冬の男鹿ぐるめマーケット」をJR・男鹿市と一帯となって実施した。	「ギネス世界記録挑戦イベント」は好評であり、急遽増枠して対応し、目標172名上回る422名の受付を行った。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	連携事業立案数					項目						項目					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標		2				目標						目標					
実績	1	2				実績						実績					
達成率	100%	100%				達成率						達成率					
達成度	a	a				達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

改善点、要望をしっかりと取り入れ対応している

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	a
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

WGで協議されたとおり実施している

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	b
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

他団体の協力・支援を受けて人材縮減に取り組んでいる

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
---	---

男鹿の冬の観光イベントとは2月に行われる「なまはげ柴灯まつり」であるが、新たな冬のイベントとして「冬の男鹿ぐるめマーケット」が官民あげて実施されたことは評価できる。

3. 課題

事業費負担について現在はJR秋田支社で大半負担しているが、地元での負担按分が懸念である

4. 今後の対応方針(改善点)

地元の人を呼べる充実した内容の事業を行い、これまでの関係機関との連携を維持し市民の協力を図っていく。

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	12	事業名	関係機関とテーマ別研究会の実施			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	男鹿市	担当者名	久保市 隆	総轄者名	三浦 達也	施策コード	4	施策名	関係機関との連携強化		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

地元鮮魚店より、地元で水揚げされた規格内魚介類は市場に出るが、規格外は自前(漁師等)で消費するか捨てるようなものであり、資源を活かしきっていないのが現状であり、商品にできないか相談を受けている。

2. 事業のねらい

今まで活かしきれていない魚介類の資源を商品に変えて市場に出すこと。例えば規格外の小魚の商品化や成魚になった鰯(ボラ)は水揚げされても商品価値があまりなく、付加価値をつけて缶詰や佃煮加工出来ないか思っているが、地元には加工場がなく、潟上の佃煮業者へ相談協議している。

3. これまでの評価結果

過年度	H29		H30		H31		H32
-----	-----	--	-----	--	-----	--	-----

付加価値をつけての加工は、まだ相談協議中である

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

色々と加工について(案)など協議しているが、地元に加工作業者なく具体的に至っていない。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
規格外の魚介類へ付加価値をつけての加工しての商品化	事業着手に至っていない。	c

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	6次産業化立案事業実施					項目						項目					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標	1	1				目標						目標					
実績	0	0				実績						実績					
達成率	0%	0%				達成率						達成率					
達成度	c	c				達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) **b**

〈評価の理由〉

市外の加工作業者へ色々と相談中である

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合) **c**

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

具体的加工に至っていない

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) **c**

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

加工するにあたりコスト削減が大事な一環であり原価計算など綿密な対応が必至

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 **c**

地元では小魚を煮干し、焼干しに考えている。需要はあるとのことであるが、設備・技術がまだ追いつかないでいる

3. 課題

地元に加工作場も食品施工施設もないので、他との異業種交流を図り6次産業化を一步でも押し進めていく事である

4. 今後の対応方針(改善点)

試験的で、潟上佃煮業者へ対応しているので、まずは結果を出して課題解決をしていく

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年 4月 5日

平成30年度(2年目)

事業コード	13	事業名	商工会独自の資格取得奨励制度の創設			戦略コード	2	戦略名	プロ集団の商工会		
商工会名	男鹿市商工会	担当者名	武田 智哉	総轄者名	久保市 隆	施策コード	5	施策名	自律的に努力し続ける職員の計画的な育成		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、職員が的確な解決策の提案ができるようにする。

2. 事業のねらい

多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、職員が的確な解決策の提案ができるよう各種資格の取得を奨励し、資質向上を図っていく。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	1	H30	0	H31		H32
-----	-----	---	-----	---	-----	--	-----

業務を遂行するにあたり、必要な資格を取得するために職員個々で取り組んできたことが、結果的に個々のスキルアップにつながっている。しかし、資格取得までは至っていない。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

昨年度は資格取得者はいなかったものの、多様化・専門化する事業者の経営課題に対して必要な情報を収集し、的確な解決策の提案を図った。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
自己研鑽のため職員個々で資質向上を図っていく。	昨年度は資格取得者はいなかったものの、多様化・専門化する事業者の経営課題に対して必要な情報を収集し、的確な解決策の提案を図った。	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	資格取得受験者数					項目						項目							
	年度	H29	H30	H31	H32		H33	年度	H29	H30	H31		H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32
目標	2	2	3	3	5	目標						目標							
実績	1	0				実績						実績							
達成率	50%	0%				達成率						達成率							
達成度	b	C				達成度						達成度							

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	b
--	---

〈評価の理由〉

職員が業務を遂行するにあたり、必要な資格取得に向け取り組むことは、結果的に職員個々のスキルアップにつながるため。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	b
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

結果的には、昨年度まで1名の資格取得者だけであるが、引き続き、多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、的確な解決策の提案ができるよう各種資格の取得を奨励し、職員の資質向上を図っていきます。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	b
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

業務に結び付く資格取得をしていくためには、学習時間を要するため。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
---	---

結果的には、昨年度まで1名の資格取得者だけであるが、多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、的確な解決策の提案をすることができる。

3. 課題

業務に結び付く資格取得にあたり、学習時間を要することと、資格取得した奨励制度の充実と拡充。

4. 今後の対応方針(改善点)

業務に結び付く資格取得すれば、充実した奨励を与えていきます。

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	14	事業名	商工会独自のセミナー等受講計画の策定及び実施			戦略コード	2	戦略名	プロ集団の商工会		
商工会名	男鹿市商工会	担当者名	武田 智哉	総轄者名	久保市 隆	施策コード	5	施策名	自律的に努力し続ける職員の計画的な育成		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、職員が的確な解決策の提案ができるようにする。

2. 事業のねらい

多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、職員が的確な解決策の提案ができるよう、民間の講習会・セミナーへの積極的な受講を促し、資質向上を図る。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	1	H30	2	H31		H32
-----	-----	---	-----	---	-----	--	-----

定期的開催されるセミナー及び商工会独自に開催するタイムリーな内容の講習会は受講させているが、より専門的な知識を習得させるには、中長期で開催される専門分野に特化したセミナー等の受講が必要である。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

職種・職員毎のスキルにバラつきがないようにセミナー等を計画的に受講させ、巡回等でタイムリーな支援ができるように資質向上に努める。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
事業者に対して、職員が的確な解決策提案ができるように、セミナー等への積極的な受講を促す等、職員の資質向上を図る仕組み・環境を整える。	定期的開催されるセミナー等の受講に加え、職員自身が希望する専門的な研修「公募型研修」に2名派遣し、資質向上につながった。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	セミナー等出席によるスキルアップテーマ数					項目						項目					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標	1	2	2	3	5	目標						目標					
実績	1	2				実績						実績					
達成率	100%	100%				達成率						達成率					
達成度	a	a				達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、的確な解決策の提案ができるよう、職員が積極的にセミナーに参加し、職員個人で自己研鑽に努めることができたことと、職員会議や職員間のコミュニケーションで習得した情報を共有したことで職員全員の資質向上につながった。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	a
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

セミナー等に積極的に参加することで、普段の業務では得ることのできない知識を習得するとともに、職員の資質向上を図っていく事ができるため。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

高い受講料や旅費などの費用の捻出が難しいため、受講者より職員会議などを通じて習得した情報を共有することで職員全員の資質向上を図っている。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
---	---

日頃の職員間のコミュニケーションや職員会議などで情報を共有することで、セミナー等を受講していない職員に関しても支援者としての資質向上につながり、事業者支援ができている。

3. 課題

職種や経験年数で受講対象が限られることがあるので、通常業務時間内に職場で行えるOJT研修などを実施し資質向上に努める。

4. 今後の対応方針(改善点)

セミナー等の受講を通じて、職員個々の自己研鑽に励んでいくとともに、多様化・専門化する事業者の経営課題に対して、的確な解決策の提案ができるようにしていく。

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	15	事業名	会員加入促進計画の策定			戦略コード	3	戦略名	事業者が主役の商工会		
商工会名	男鹿市商工会	担当者名	武田 智哉	総轄者名	久保市 隆	施策コード	6	施策名	実効性のある会員加入促進活動の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

男鹿市の地域情勢は大きく変化しており、人口については今後15年で3割減少すると試算され、地域内を商圏とする事業者にとっては事業そのものの継続が難しくなると推察されるため。

2. 事業のねらい

会員・役員が積極的に会員加入促進活動を展開する等、商工会事業への参画意識を高めることで事業者が主役となった商工会運営を実現していく。

3. これまでの評価結果

過年度	H29		H30		H31		H32
-----	-----	--	-----	--	-----	--	-----

記帳指導や労働保険、各種共済などを通じて新規会員加入に繋がったほか、商工会の理事会等通じて、役員の方々から情報を密にし、新規会員加入に結び付けた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

記帳指導や労働保険、各種共済などを通じた新規に会員加入に繋がったほか、商工会の理事会等通じて、役員の方々から情報を密にし、新規会員加入に結び付けた。また、昨年7月にオープンした道の駅「おが」関連で新たに事業を展開する事業者に寄り添った支援をしていき、会員獲得に結び付けることができた。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
商工会の経営改善普及事業等や会員・役員と連携を密にし、会員加入促進活動を展開していく。	職員間での情報共有や会員・役員と連携を密にした結果、新規加入会員13件とすることができた。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	項目					項目					項目						
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

〈評価の理由〉

記帳指導や労働保険、各種共済などを通じて職員間で情報共有を図ってきたこと、商工会の理事会等通じて、会員・役員の方々から情報を密にし、新規加入会員を図ってきたこと。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合) a

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

地域内を商圏とする事業者にとっては事業そのものの継続が難しくなると推察されることから、29年度は目標値を達成できなかったものの、昨年度は目標値を上回る件数を獲得できた。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) b

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

会員・役職員との連携を密に図っていく事で、新規加入会員促進にかかる時間や巡回等にかかるコスト削減ができる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

会員・役員と協力して新規会員加入促進をしていく事で、会員・役員との信頼関係が築かれ、また職員間の情報共有をしていく事で、結果的にどの業務においても会員・役職員間のコミュニケーションが図れる。

3. 課題

新規会員加入促進にあたり、アプローチしていく。

4. 今後の対応方針(改善点)

これまで以上に会員・役職員の連携を密にとり、新規加入会員促進に努めていく。

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月5日

平成30年度(2年目)

事業コード	16	事業名	役職員が一体となった会員加入促進活動の実施			戦略コード	3	戦略名	事業者が主役の商工会		
商工会名	男鹿市商工会	担当者名	武田 智哉	総轄者名	久保市 隆	施策コード	6	施策名	実効性のある会員加入促進活動の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

男鹿市の地域情勢は大きく変化しており、人口については今後15年で3割減少すると試算され、地域内を商圏とする事業者にとっては事業そのものの継続が難しくなると推察されるため。

2. 事業のねらい

会員・役員が積極的に会員加入促進活動を展開する等、商工会事業への参画意識を高めることで事業者が主役となった商工会運営を実現していく。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	7	H30	13	H31		H32
-----	-----	---	-----	----	-----	--	-----

職員の経験年数や人事交流で新たに赴任する方の経歴等を踏まえ、年間の目標を見立て、会員加入促進に努めております。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

記帳指導や労働保険、各種共済などを通じた新規に会員加入に繋がったほか、商工会の理事会等通じて、役員の方々から情報を密にし、新規会員加入に結び付けた。また、昨年7月にオープンした道の駅「おが」関連で新たに事業を展開する事業者に寄り添った支援をしていき、会員獲得に結び付けることができた。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
会員・役員、職員間の連携を密にし、会員加入促進活動を展開していく。	会員・役員、職員間の連携を密にした結果、目標としていた10件を超えることができた。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	項目					項目					項目						
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標	10	10				目標						目標					
実績	7	13				実績						実績					
達成率	70%	130%				達成率						達成率					
達成度	c	a				達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

会員・役員、職員間の連携を密にし、会員加入促進活動を展開していくことは、ゆくゆく商工会の運営基盤につながっていくため。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	a
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

年間の目標を掲げ、会員・役職員一丸となって会員加入促進運動を実施しているため。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

会員・役職員との連携を密に図っていく事で、新規加入会員促進にかかる時間や巡回等にかかるコスト削減ができる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	a
---	---

年間の目標を掲げ、会員・役職員一丸となって会員加入促進をしていることで、結果的にどの業務においても会員・役職員間のコミュニケーションが図れる。

3. 課題

職員の経験年数等により、指導スキルのバラつきはありますが、会員・役職員のコミュニケーションを通じて、掲げる目標をクリアしていく。

4. 今後の対応方針(改善点)

職員の経験年数や人事交流で新たに赴任する方の経歴等を踏まえ、年間の目標を見立て、会員加入促進に努めていくことと、これまで以上に会員・役職員の連携を密にとり、新規加入会員促進に努めていく。